講義名	生涯スポーツ論					授業形態	
担当教員	天田　英彦	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング	

主題と概要

スポーツは、これまで自由時間の活用、健康の維持増進、身心のストレスの解消等その価値が強調されてきた。高度に発展した産業社会や大衆社会状況から、国民がスポーツへの依存が強まったことからも伺うことが出来る。スポーツ需要・消費行動、それに呼応する供給サイドであるスポーツ市場、スポーツ産業の動向が注目されている。また、運動やスポーツを奨励することは、国民の健康水準を高める。そのことから国民の医療費の削減、生産性の向上といった経済効果が認められるようになった。
この科目では、注目を浴びる生涯スポーツを取り上げスポーツの需要・スポーツ市場・スポーツ産業について社会状況と絡めて学習する。
本科目を受講することにより、生涯スポーツにおける課題の解決策が提案できるようになってもらいたい。そのためには、課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて情報を収集したうえで、情報を多角的に分析し新しい視点と豊かな発想が必要である。

到達目標

生涯において、スポーツ活動を実践する事を目標とする。
その内容として
①意図的な身体活動がどの様な効果があり有意義であるのかを理解する。
②公的機関が提供している情報を理解しそれを利用することが出来る。
③健康リテラシーを身につけ実践することが出来る。

提出課題

講義中に数回のレポート課題の提出がある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義で受けた資料等を使い、ライフスタイルの中でどの様に生涯スポーツの実践ができうるかを考え生涯にわたり健康の維持、増進につとめることを重視する。

評価の基準

１，２／３以上出席しないと単位認定をしない。
２，講義中に４回のレポート課題の提出を求める。レポート点は１回20点満点とする。
３，単位取得には、２／３以上の出席と60点以上のレポート点が必要である。
４，中間試験および期末試験を実施する。

履修にあたっての注意・助言他

１，講義開始時間に毎回出席カードを配布する。遅刻者は、正当な理由がない限りカードは配布しない。
２，レポート課題は、不定期に行う。当日欠席した場合は、レポート提出機会を失う。
３，教室内に入ったら、脱帽し私語をしない。また、飲食物はカバン等に入れること。

※新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスの修正がある。

教科書

．<教科書>　・必要に応じ講義時間中に配布する。．				

参考図書

その他

適時、配布する。

授業計画

1 生涯スポーツ論を学ぶための基礎知識と講義の進め方
2 現代社会と生活環境
3 スポーツ生涯教育の理念
4 健康問題・高齢化に見る社会背景
5 スポーツ行政の現状と課題
6 スポーツに対するニーズの変化
7 スポーツ消費行動の変化と需要分析
8 前半のまとめと中間試験
9 スポーツ産業の現状と課題
10 スポーツ・イベントの効果（プロ、アマ）
11 企業フィットネスクラブの現状
12 スポーツ産業における人材育成
13 地域における健康づくりの実態
14 スポーツ経済統計の活用
15 まとめ（試験）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
①自分の住む地域のスポーツ振興プランを調べ、行政が行っている活動を理解する。
②行政が行っているスポーツジム等を見学し、実際に行われているプログラム等を資料として持つこと。

復習
授業における生涯スポーツに対する課題や問題解決に対し、予習で得た資料を使って自分の考えをレポートする。

単位を修得するためには、15 回の授業と、1 回の授業に対して、4 時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受講し目標、目標を達成することで本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の３項目（②、③、④）および、教養一般のカリキュラムポリシーへの貢献することが出来る。講義で得られた知識、さらに自らが収集した情報を分析し、現状を把握すると同時に問題点を発見することが出来る。そして、新しい視点と豊かな発想によって新しい価値や改善策を提案することができる。また、広くときには深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うことが出来る。以上については、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

利用は考えていない。

実務経験の有無及び活用

障害者スポーツの支援。健常者および障害者の共生を目的として講義内容を行っている。

備考

なし。